

銚子川「奇跡の美しさ」

紀北町 淡水環境でシンポ

【北牟婁郡】紀北町と自治総合センターは二日、町海山区相賀の海山公民館大ホールで「日本にはまだこんなに美しい川がある！

銚子川シンポジウム」を開き、町内外から三百五十人が参加した。淡水の環境にこだわる水中写真家・内山りゅう氏と歌山県白浜町Ⅱが、銚子川の魅力について基調講演した後、久隆浩近畿大学教授をコーディネーターに、パネリスト四氏が「川の現状と未来—銚子川からの発信」をテーマに熟のこもった討論を繰り広げた。

銚子川は、大台山系に源を発し、海山区の中心部を貫流して熊野灘に注ぐ、海山区民にとっては「母なる川」。沿線に名勝負飛溪谷や種まき権兵衛の里などがあり、同町の観光資源の一つ。世界中を歩いてきたと



「川の現状と未来」について話し合うシンポジウム＝紀北町海山区相賀の海山公民館で

取材に訪れた銚子川のすばさを、「これほど美しい川は普通にはない。奇跡と言えるほどで、地元の人気が付いてほしい」と絶賛。「雨が多いこと、源流から河口まで河床こう配が強い。生活排水が入らない」ことを理由に挙げた。

いう内山氏は基調講演で、地球上で飲み水となる淡水の貴重さを紹介した。

尾上壽一町長は

あいさつの中で、「大切な自然遺産を、どう後世に伝えるのか、シンポジウムの提言を、観光行政に生かしていきたい」と述べた。